

令和7年度 授業改善推進プラン <技術・家庭 家庭分野>

大田区立大森第十中学校

○技術・家庭(家庭分野)における令和7年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・身近な内容を取り上げることで、自分の生活を見つめるきっかけをつくることができた。
- ・食品や幼児期に使用していた物の実物を見せるを通して、学習内容をより身近に感じ、授業に関心をもたせることができた。

<課題>

- ・日常での生活経験の差が激しい。基本的な家庭科の技能を定着させ、差を縮める必要がある。
- ・教科に対して苦手意識を持っている生徒も一定数いるため、苦手意識を持つ生徒に対して「わかる授業」「ためになる授業」を展開する必要がある。

○技術・家庭(家庭分野)における観点別の分析

知識・技能

- ・タブレットの活用や個別指導により技能を一時的に習得することはできるが、習得した技能を生活の中で活用することが少ないため、さらに技能を向上させることや定着を図ること、学んだ内容を実生活に活用する喜びを感じさせることが難しい。

思考・判断・表現

- ・生活をより良くしようと実生活の中で自ら問題に気付く力や課題を設定する力を育むことはできだが、課題を解決する方法や実際に解決する力の育成が不十分である。

主体的に学習に取り組む態度

- ・苦手な内容や興味や関心がない内容になると消極的になったり投げやりになったりする生徒もいるため、全体指導と個別指導の両方をうまく取り入れる必要がある。
- ・裁縫に対して苦手意識をもつ生徒への指導を工夫する必要がある。
- ・自分の生活と社会の関わりについて理解を深め、身の回りの生活の中で適切に知識・技能を活用する態度の育成が必要である。

○分析に基づいた授業改善のポイント

1 長期休業中の課題として、学んだ内容を実践させる機会を設ける。

学んだ内容を踏まえて自分なりに考え方行動することを通して、学んだことを実生活に活かす重要性を体験する。

2 生活の中で問題を見つけ、課題を解決する力を養うための学習活動の充実

日頃の授業において、問題を見つけ解決する力を養う取り組みを行う。1人では考えることが難しい生徒もいるので、グループで行い、他者の発表を通して学ぶ機会も設定する。

3 「わかる」「ためになる」授業を行い、関心意欲につなげる。

生徒の日常生活に活用しやすい内容を多く取り上げ、教材を工夫する。全体指導と個別指導のバランスをとり、苦手意識のある生徒には各自の知識技能の習得状況に応じた対応をする。

○技術・家庭(家庭分野)の授業改善策

第1学年

- ・生徒自身が自分の生活に置き換えて考えやすい内容を多く取り入れた授業を行う。また実生活で活用しやすい内容を多く取り扱う。
- ・全体指導と個別指導を取り入れながら、基本的な家庭科の知識と技能の定着を図る。

第2学年

- ・昨年度習得した知識と技能を活用するような教材を取り入れ、必要に応じて復習を兼ねた教材も取り入れる。
- ・班で問題解決学習をすることで、他者の意見に触れ学びを深める。

第3学年

- ・自分の生活や社会における問題点を見つけ、既習事項を活用しながらそれらを解決する方法を考え、実践できるようにする。
- ・自立した生活を送るために、学んだことを活用し、よりよく生きようとする意識を高める。